

ともに課題の解決に取り組むことができる

(イ) 学位授与の要件

福祉心理学科の教育目標を理解し、124単位の単位取得と要件、求められるGPA^{*1}を満たした上で、心理学の知識と技能を修得し、上記の「心理実践力」について実践を通して理解を深めた人物に学位を授与します。

*1 GPA：p. 261～262参照

IV GPAについて

通信教育部では、2014年度入学者から国際的な成績評価基準であるGPA制度を導入しています。

1 GPAとは

GPA (Grade Point Average) は世界的に用いられている成績評価です。

グレートポイント (GP) は、100～90点を4.0、89～80点を3.0、79～70点を2.0、69～60点を1.0、59点以下を0として換算し、GPAの計算式は下記のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0}{\text{履修登録した科目の単位数合計 (「不可」「履修放棄」を含む)}}$$

小数点以下第2位まで求めます (小数点以下第三位を四捨五入)。

表1 評定、点数、評価基準、GPの関係

評定	点数 (100点満点)	評価基準			GP (科目の評点)
		到達目標	成績	判定	
優(秀)	90点～100点	ほぼ完全に達成	きわめて優秀	合格	4
優	80点～89点	十分に達成	優秀		3
良	79点～70点	概ね達成	良好		2
可	69点～60点	最低限達成	最低の合格可		1
不可	59点以下	達成していない	合格不可	不合格	0

※なお、100点満点の点数は学内計算用であり、学生に開示するものとしては数値を算出していません。

2 通信教育部におけるGPAについて

GPAは、自らの学修状況（学修の到達目標の達成レベルやその推移等）をふり返り、自己管理して学んでいくために活用してください。

海外の大学・大学院へ進学される場合は、卒業時の「GPA」の得点を良くしておくことを推奨します。また、今後、国内の大学・大学院に進学する場合などにも、GPAの得点が判断材料になる可能性もあります。

進学を考えていない方も、目安として卒業時の「GPA」が2.0以上になることをめざしてください（最低限1.5以上ないと卒業前に特別に課される面接（口答試問）に合格する必要があります。p. 258参照）。安易な履修放棄を避け、自ら積極的に学習し、学習目標の達成と向上をめざすことが望まれます。

3 GPAが記載された単位修得成績証明書と特別履修取消手続きについて

GPAが記載された単位修得成績証明書は、1通300円（英文1,000円）で発行します。また、卒業時にのみ、学習履歴のない（レポート未提出、スクーリング未受講）科目の特別履修取消ができます。履修取消は1科目につき手数料500円が必要です。

卒業時の特別履修取消希望者は、事前に通信教育部事務室に書面（郵送・メール・FAX）で取消可能科目を確認のうえ、任意の書式に①学籍番号・氏名、②履修取消希望科目名と科目コードを記載し、取消科目数分の手数を添えて、3月卒業の場合1/15～2/20、9月卒業の場合8/1～9/15の間にお申し出ください。

なお、今後予定されている通信教育部の成績管理システムの改修などにより、ここに記載した内容が変更される場合があります。